

会議録（要旨）

開会に先立ち、委嘱書交付式を実施した。

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 自己紹介
4. 議事

(1) 委員長及び副委員長の選任

＜事務局説明＞

事務局より、八潮市市民活動推進委員会規則第5条第2項の規定により、委員長・副委員長は委員の互選による旨の説明を行った。

委員長) 昼間委員の松澤委員推薦の発声により決定した。

副委員長) 松澤委員の西田委員推薦の発声により決定した。

(2) 令和4年度八潮市協働のまちづくり推進事業助成金助成事業の実績報告について

＜事務局説明＞

事務局より、資料に基づき説明を行った。

実績報告会

事務局による説明の後、令和4年度助成した2団体から実績報告を発表した。

①特定非営利活動法人つながるネットワーク八潮

「防災の視点から考える地域づくり

～クロスロードゲームで人と人をつなぐ地域の防災活動～」

＜質疑応答＞

- 補足資料「アンケートからみえたこと」2枚目の④にて、基調講演の中身とクロスロードゲームをうまく結びつける手法が必要であったとあるが、現時点で改善案はあるか。

↳ 今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、事前に対面による打ち合わせができなかった。次回以降は綿密に打ち合わせをし、講演内容を確認したうえでクロスロードゲームと結びつけていきたい。

- 実際に講演会に参加したが、防災について考える良いきっかけとなった。多くの方に参加してもらいたいと感じる講演会だった。

②子ども応援団・結

「簡易的な街並みを用いた体験型安全教室」

＜質疑応答＞

- 対象が幼児から小学校6年生までと幅広いが、年齢別のニーズを意識してプログラムを行ったのか。

↳ お子さんの発達段階に合わせてプログラムが組み立てられており、学校から依頼があった場合などは学年別のプログラムを使用している。今回は、活動の周知を兼ねて幅広く募った。自助の基本は全年齢共通だが、高学年には「自助に加え共助」、低学年には「いざというときに自分でできること」など、年齢に対応させたプログラムを行った。また、保護者に対してもプログラムを伝えているので、各家庭でお子さんの年齢に応じた声掛けができると考えている。

● テレビで活動が紹介されていたが、活動場所が八潮だけでなく全国に広がっていくと良いと感じた。

↳ 子ども応援団・結は、プログラムの作成元であるNPOから体験型安全教育指導士の資格を受けて活動している。団体としても、資格保持者が増えプログラムが全国に広がっていくと良いと考えている。

● とてもユニークな教室である。「体験型安全教育プログラム」はどのような方が開発者したのか。

↳ 開発者は、NPO法人体験型安全教育支援機構であり、警察庁科学警察研究所の元職員によるものと聞いている。

<委員長による講評>

2団体とも、対象者にわかりやすく働きかける努力や工夫がみられた。また、他団体と協力して事業を実施しており、市民活動団体の熱意が感じられた。

つながるネットワーク八潮については、防災は切実な問題ではあるものの、普段の生活からきっかけをつかみづらい。ゲームを用いてわかりやすく展開したことは大きな成果である。

子ども応援団・結については、立体的な街並みをつくることで子どもが世界観に没入し、安全対策を肌で学ぶことができたのではないかと考える。また、子どもだけでなく保護者に向けたアプローチも伺え、アンケート結果からも「有料でも参加したい」との意見や、事業実施後に3校からオファーがあったことは素晴らしい成果である。八潮も都市化が進んでいるが、子どもたちが街中に潜む盲点に気づくことができるよう、わかりやすく展開した良い事例であった。

(3) 令和5年度八潮市協働のまちづくり推進事業助成金助成事業の審査について

<事務局説明>

事務局より、資料に基づき説明を行った。

事業説明会

事務局による説明の後、令和5年度申請した2団体から事業説明について発表した。

①八潮市ちゃんねる
「(仮称) やしおリトルタウン」

< 質疑応答 >

- 今回の事業は、団体の運営規約に記載された事業のうち、どの項目にあたるのか。
 - ↳ 規約上の「情報サイトへの掲載・運営」に含めたいと考えている。事業を実施することで、情報サイトの掲載（出店者の紹介など）が増え、情報サイトの発展・運営につながるものとする。
- 団体の運営規約には資金に関する項目がないが、収支予算書にある持出金の財源はあるのか。
 - ↳ 運営している情報サイトの広告収入があり、通常は情報サイトのサーバ代、ドメイン代に充当している。不定期・少額の収入ではあるが、過去からの累積分があるため、今回の持出金の財源とする。
- 中学生のボランティアはどのように募集する予定か。
 - ↳ 事業実施が決まってから、教育委員会に相談のうえ、各中学校へ募集をかけたいと考えている。
- 情報サイトの広告収入（内部資金）があるのであれば、助成金10万円を申請する根拠はあるのか。
 - ↳ (八潮市ちゃんねる) 営利を目的としないボランティア団体であるため、資金が潤沢にあるわけではない。広告収入も、通常は活動経費に充てているため、今回の事業を実施するためには助成金を活用する必要があった。
- 八潮市観光協会と協力して事業を行うことや、中学生ボランティアの社会体験も兼ねるとのことで、新しいかたちでのイベント開催について模索している姿勢が見られ、良い事業になることを期待している。

②八潮の地名から学ぶ会
「リーフレット「浮塚出身の時計商・小林伝次郎と銀座」(仮称) 製作」

< 質疑応答 >

- 事業の目的には、「八潮市域出身の偉人を紹介し、郷土の人々やその背景にある文化、生活、歴史や自然への興味・関心につなげる」とあるが、「自然への興味・関心」にはどのようにつなげるのか。
 - ↳ 直接的に「自然」には結びつかないが、団体の思いとして、自分たちの郷土（生活の地場）に関心を持ってほしいと考えている。郷土という概念の構成要素の一つとして自然を数えている。

- 収支予算書にある、活動支援金とは会費を財源にしているのか。また、支出の需用費の内訳の詳細について説明してほしい。
 - ↳ 定期的な会費は設定しておらず、入会金として入会時1回1,000円をいただいているが、活動の経費を賄えるほどの収入ではない。このほか、講演など事業実施の際の寄付金はあるが潤沢に集まるわけではない。財源としては、主たる活動メンバーからの寄付となる。需用費の内訳は、リーフレット8,000部の印刷費である。
- 今回は「小林伝次郎」とのことだが、次に紹介したい偉人はいるのか。
 - ↳ 現時点では、団体の中で次に紹介する偉人について議論していない。八潮の地名に関する文献を研究する中で「小林伝次郎」につながったことが、今回の事業につながっている。
- 八潮市域出身の偉人というだけでは、八潮市との結びつきが弱いのではないか。

<委員による審査>

各委員による採点結果の報告及び意見の聞き取りにより、審査を行った。

※ 集計結果報告及び審査にあたっては、傍聴者との利害関係による影響をなくし、委員の自由な意見に基づいた公正かつ公平な審査を行うため、非公開とした。

⇒ 両団体ともに、助成対象事業として適正であると評価し、市に報告する。

5. その他

次回の委員会について

令和5年7月26日（水）を予定

6. 閉会